

国連ユニタール 南スーダン 奨学プログラム

明るい未来のための人材育成

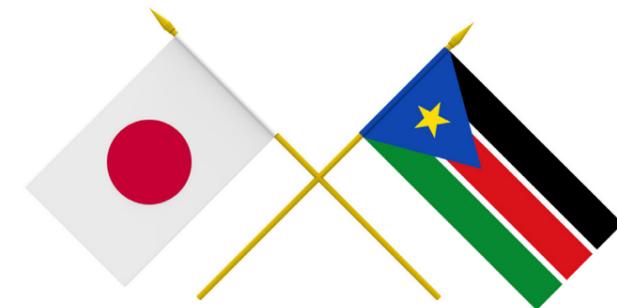
国連ユニタール

国連訓練調査研究所（UNITAR・ユニタール）は研修を専門とする国連機関として1965年に設立されました。以後約50年にわたって、世界中で外交・経済発展・環境・平和・復興といった多分野において研修を行っており、本部はスイスのジュネーブにあります

ユニタール広島事務所は2003年に国連機関として初めて広島の地に事務所を構えました。以降13年間にわたりアフガニスタンやイラク等の紛争復興後の国に対する研修を行い平和を推進してきました。

UNITAR
Palais des Nations
1211 Geneve 10
Switzerland
T +41 22 917 8400
F +41 22 917 8047
www.unitar.org

国連訓練調査研究所
（ユニタール）広島事務所
730-0011 広島市中区基町5-44
商工会議所ビル5F
T +81 082 511 2424
F +81 082 211 0511
www.unitar.org/hiroshima



2015年度第2回ワークショップ

国連訓練調査研究所（国連ユニタール）は日本国の支援のもと2015年から「国連ユニタール南スーダン奨学プログラム」を開始いたしました。本プログラムは、南スーダンの現状を踏まえ、南スーダンの持続可能な復興と成長を支援するために必要なプロジェクト開発と実施、起業家精神、そしてリーダーシップスキルなどを強化していきます。



2015年度研修の開会式の来賓

目的

「国連ユニタール南スーダン奨学プログラム」は6か月間にわたる研修プログラムで、南スーダンの公共機関や市民団体、民間機関、学術機関などで活躍する若手及び中堅専門家の知識、スキルや意識向上を目指しています。フェローと呼ばれる研修生たちは国家の優先課題と地域のニーズの両方を把握した上で、それらの課題に対処し南スーダンの復興と発展に貢献するようなプロジェクトを考案します。また、リーダーシップやメンターに関する手法やスキル向上にも取り組み、各研修生がリーダーとして活躍し、各自の所属先に改革をもたらす能力強化を行います。

研修内容

本プログラムでは、様々な学習手法を使用して3つのワークショップを実施し、研修期間中に各自が1つのプロジェクトを完成させていきます。また、オンライン研修を利用して変更管理やリスク緩和策等のトピックについて学びます。研修生は、各自の所属先のニーズアセスメント及び環境分析の結果を踏まえ、なおかつ南スーダンが現在直面している課題に対処するプロジェクト案を提案し、研修終了時までプロジェクトの行動計画を完成させます。



ワークショップで学ぶ研修生

2016年7月、南スーダンの首都ジュバで第1回目ワークショップが実施され、研修生はプロジェクト案を作成するために必要な知識および成功事例について学びます。第2回目のワークショップは2016年9月に広島で開催され、プロジェクトを成功に導くために必要なツールやプロセスについて学びます。また、研修生たちは広島がたどった復興プロセスや効果的な復興や開発のために必要なプロセスについても学びます。第3回目の最終ワークショップは、再度ジュバで開催され、優秀なリーダーとして活躍するために必要なスキルやコミュニケーション手法を学び、プロジェクトを完成させます。



包括的な発展及びエンパワメントに貢献

専門家の支援

ユニタール職員に加え、国際色豊かな講師やメンターたちが体験談を共有したりアドバイスや意見交換をしながら研修期間中サポートしていきます。

優秀な研修生は次年度の研修のコーチとして選ばれ、コーチングに関する特別な研修を受け、将来の南スーダンを担う人材育成にかかわっていきます。



在ナスーダン紀谷大使と隈元所長
南スーダンでテレビ番組とラジオ番組へ出演しインタビューを受けました。

主催者

本プログラムは国連ユニタール広島事務所によって考案・調整され、日本国外務省からの資金で実施されています。

また、南スーダン政府の外務国際協力省は政治的な調整役として、また労働公共事業人材開発省は実務的な調整役としてご支援を頂いております。

日本国外務大臣



今回、東京及び広島において、国連訓練調査研究所（UNITAR：ユニタール）が実施している南スーダン奨学プログラムの一環として、南スーダンからの研修員の方々が参加するワークショップが開催されることをお慶び申し上げます。

南スーダン共和国は、2011年に世界で一番新しい国として誕生し、多くの課題を抱えながらも復興の道を歩んでいる若い国です。国づくりを担う行政官らの能力向上は、南スーダンの発展を左右する国家百年の計と言えます。我が国も戦争の惨禍から立ち直り、戦後70年に亘り、世界の平和と繁栄に貢献する国家となりました。このような我が国の平和国家としての歩みと経験は、国づくりをスタートさせたばかりの南スーダンの将来にとっても役立つものと確信しております。

ユニタールは開発途上国の行政担当官などの人的教育を通じて、開発途上国の課題解決に貢献する機関です。今回日本政府からの支援により、ユニタールが実施する南スーダン奨学プログラムは、将来の国づくりを担う南スーダンの若手・中堅の行政官を始めとした様々な分野のステークホルダーに対して、南スーダンにおいて持続可能な開発を進めていくための課題解決の能力を高めるための研修を行うものです。

本研修を通じて、研修生たちが行政能力・課題解決能力を高め、南スーダンの国づくりと持続可能な開発に大いに貢献することを祈念いたします。また、今回の訪日を通じて、日本との絆を深めていただくことを期待します。

最後に、今回のユニタールによる研修が大きな成果につながることを願い、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

日本国外務大臣 岸田文雄

2015年度プログラムの成果

「国連ユニタール南スーダン奨学プログラム」は、2015年9月から2016年3月にかけて国連ユニタールが初めて開催したプログラムです。公共機関や市民団体から、女性8名を含む計20名の研修生が本プログラムを修了しました。

研修生は、本プログラムの内容が実際の業務に関連した内容であったことや、学習目的を達成する上で講師及び訓練方法が効果的であったことなどを挙げ、本プログラムを高く評価しました。

研修後、研修生の多くは、所属機関で本プログラムを通して得た経験や重要な研修内容について報告会を実施し、職場の上司や同僚に共有しました。



グループワーク中に講師と積極的に関わる研修生

本プログラムを通じて、計20のプロジェクト案が作成されました。研修生はそれぞれの機関のニーズアセスメントを実施し、所属機関が直面する課題を洗い出し、その課題に対応するプロジェクト案を作成しました。その内容は、能力開発研修から市民支援サービスの作成など幅広いものでした。

これらプロジェクト案は、研修生がしっかりと研修で学んだ結果として策定した成果物であり、現在各所属機関で実施に向けて審査中のものもあります。



原爆ドーム

広島

第2回ワークショップは広島にて開催されます。今では平和都市と呼ばれる広島は、世界で初めて原子爆弾が投下された後短期間で復興を成し遂げました。そして、世界中に平和を訴え続け、広島がたどった様々な体験談を共有しています。広島を訪れた人々は原子爆弾の破壊力を目の当たりにし、世界平和の推進と核兵器の廃絶を願うことでしょう。